



発行：熊谷市立江南文化財センター

## TOPICS

### 文化財防火デー



1月26日（火）、上之村神社（上之）と古宮神社（池上）において、消防訓練と防火管理状況の査察を実施しました。

昭和24年1月26日、法隆寺金堂壁画が焼損したことをきっかけに、文化庁は同日を「文化財防火デー」と決めました。この日を含む期間において、文化財を火災・震災やその他の災害から守るためのキャンペーンが全国的に展開されています。

熊谷市においても、毎年、熊谷市文化財保護審議会委員、熊谷市消防本部の協力を得て、市内指定文化財の消防訓練や防火管理状況の査察および指導を行っています。

上之村神社では、拝殿付近で出火したという想定による消防訓練を行い、氏子・自警消防団による初期消火訓練、消防団の成田分団による放水訓練などを実施しました。古宮神社では、市指定文化財の「獅子頭」が保管されている建物などの防火管理状況を確認し、緊急時の対応方法について意見交換を行いました。[防火デー実施状況：消防本部主催・龍淵寺（24日）、歓喜院聖天堂主催・消防本部協力（26日）]

### 重要文化財歓喜院聖天堂の公開イベント

妻沼の歓喜院聖天堂では、平成15年から本殿の保存修理工事を実施していますが、本殿を覆っている仮設の屋根と足場が平成22年3月で撤去されるにあたり、完成した建物上部を希望者に有料で公開するイベントが、平成22年3月25日～31日に行われました。

7日間という短い間にもかかわらず、合計で1,126人もの参加者があり、漆で昔の姿を取り戻した見事な本殿や、金箔や鮮やかな彩色が施された数々の彫刻に見入っていました。

本保存修理工事は、平成22年度に全てが終了し、平成23年6月に一般公開される予定となっています。



修理が終了した本殿軒下の彫刻と彩色

### 市指定無形民俗文化財「小江川獅子祭り」



地区内を巡回する「お獅子様」

平成22年3月13日（土）、市内小江川の高根神社および小江川地区内にて市指定無形民俗文化財の小江川獅子祭りが開催されました。この祭りは、高根神社の春祭りとして行われるもので、上尾市の八枝神社から借り受けた「お獅子様」を担いで、高根神社から地区内を廻り、春の到来を告げる風物詩となっています。戦後の時期から長い間中断していましたが、平成になると復活の機運が高まり、今日では多くの地元住民が参加する重要な伝統行事として盛り上がりを見せています。

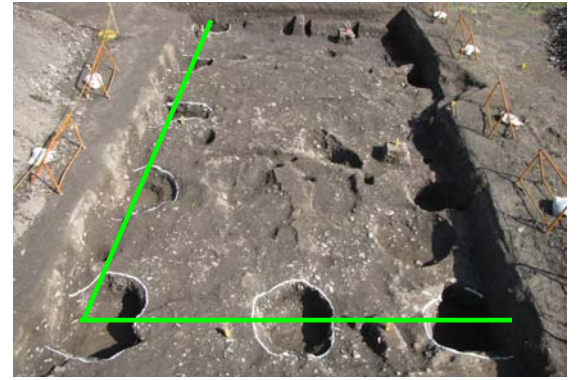
## 市内遺跡発掘情報

### 前中西遺跡「大型掘立柱建物跡と河川跡発見！」

今年の1月から3月にかけて、上之地区の区画整理事業に伴う平成21年度第3回目の発掘調査を実施しました。前中西遺跡は、弥生時代中期から後期にかけての大規模かつ広範囲に営まれた集落が発見されていることで注目されています。

今回の調査では、弥生時代中期や古墳時代後期の竪穴住居跡、飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物跡、河川跡など多数の遺構が発見されました。特に注目すべきは、大型の掘立柱（ほったてばしら）建物跡の発見と、古墳時代前期まで現役だった河川跡の発見です。掘立柱建物跡は、律令制度が始まる奈良時代直前前後の7世紀末～8世紀初頭（今から約1,300年前）のもと考えられ、桁行4間以上、梁行2間以上（床面積55㎡以上）の大規模な建物（地面に掘った穴に直接柱を立てて造った高床式のものが想定できる）で、柱の根元が残った柱穴もありました。この建物は、規模が断然大きことから、役所など特殊な機能をもつ建物と考えられます。

一方、河川跡は旧流路で、ここからは量は少ないものの弥生土器、磨製石斧（ませいせきふ）、土師器（はじき）のほか脚付盤という容器などの木製品も出土しました。特筆すべきは、河川跡を覆うように古墳時代の6世紀初頭（今から約1,500年前）に群馬県榛名山が噴火した際に降った火山灰が積もっていたことです。これにより、この火山灰が降った頃には、河川が埋まっていた機能していなかったことが推定できました。



掘立柱建物跡

### 諏訪木遺跡出土埋蔵銭最新情報！

平成20年度に市内上之の諏訪木遺跡で出土した埋蔵銭は、その出土状態の良さや枚数の多さから各マスコミに取り上げられ、大きな反響を呼びました。



埋蔵銭クリーニング作業風景

埋蔵銭は発掘現場から土の付いた状態で取り上げましたが、時間の経過とともに乾燥が進み、土台のひび割れや古銭の崩落等が生じてきました。そこで平成21年度に土台の固定、クリーニング（埋め土や容器の痕跡と思われる植物片の除去）、現状の図面作成作業を実施しました。また崩壊してしまった場合、出土状態を復元できるように3D計測も行いました。3Dデータときれいになった埋蔵銭の写真をホームページ「熊谷市の文化財」に掲載いたしましたので、どうぞご覧ください！

### 連載 埋蔵文化財の保護活動 第3章 試掘調査の方法②

試掘調査での遺跡の確認は、遺物の有無と遺構（人為的な痕跡）の有無によりわかります。遺物は土器や埴輪、石器などが出てくるか見ます。土器は江戸時代以降の新しいものか、古いものかで判別します。自然の石と石器の違いは、加工の痕跡を見極めます。遺構は自然堆積の地層（地山）と人為的な痕跡が埋没した土（覆土）を見極めます。具体的には、1. 土の色、2. 締り・固さ、3. 混入物、4. 覆土範囲の形状の違いで確認します。右の写真は発掘調査で住居跡を見つけた状態です。



### 出土品展示情報

埼玉県立さきたま史跡の博物館 企画展「埼玉古墳群とその周辺『稻荷山』出現以前の古墳」

3月13日（土）～5月16日（日）午前9時～午後4時30分 月曜休館

展示品：塩古墳群から出土した土師器など

江戸東京博物館 発掘された日本列島2010 地域展「古代武蔵国の郡衙」

6月5日（土）～7月25日（日）午前9時30分～午後5時30分（土曜は延長）月曜休館

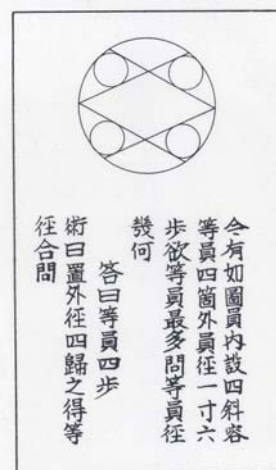
展示品：西別府祭祀遺跡の滑石製模造品と西別府廃寺の瓦・瓦塔など



## 文化財センター事業報告

### 市指定文化財「算額」調査

2月上旬、代地区の所有者宅において、市指定文化財「算額」の管理状況の確認調査を行いました。算額とは、算術の問題などを記した木製の額のことで、今回調査したのは、弘化4年（1847）3月、関孝和から七伝目の和算家である代島亮長（久兵衛）が代（宮ノ下）にあった諏訪神社へ奉納した算額です。現物については、墨字の薄れが見られましたが、保存状態は良好でした。額の大きさは、189×84cmあり、その中に一つの問題が提示されています。題意としては「一寸六分の直径の両端から四本の弦を引き、弦と円周の空間に等円を内接させた場合、その円が最大となる時の等円の直径はいくつになるか、答 等円の直径四分 計算は一寸六分を四で割って等円の直径四分となる」というものです。皆さん、解けましたか。



算額に示された算術の問題

### 国指定史跡宮塚古墳説明板設置

3月下旬、国指定史跡宮塚古墳の説明板を広瀬地内に設置しました。宮塚古墳は、全国的にも珍しい上円下方墳という墳形で、昭和31年に国指定史跡として指定されました。この熊谷市内唯一の国指定史跡である宮塚古墳への関心を高めてもらうことを目的に、説明板の図案や文言を検討し、設置に至ったものです。説明板には、墳形の測量図、宮塚古墳の所在する広瀬古墳群の説明についても記載しました。



熊谷さくら運動公園内の、市道「宮塚古墳通り」に隣接する箇所に設置しましたので、近くへいらした時は、説明板をご覧ください、是非、宮塚古墳を見学してみてください。

### 文化財探訪 根岸家長屋門①—根岸家の歴史と共に

市指定文化財「根岸家長屋門」は江戸後期の寛政年間に建築されたと推測され、その後の拡充を経て、明治維新という急速な近代化の中で、根岸家の人々とともに歴史を刻んできました。

当所青山村の名主家であった根岸氏は荒川船運や水田・酒造などの家産を興し、幕末に当主であった根岸伴七（友山）は草莽の志士たちとの交流を持ち、「尊王攘夷」運動にも参加しています。自身も各地を遊歴したと伝えられ、長州藩毛利家のお役御用も勤めました。江戸との往来も頻繁で、多くの文人やゆかりの人たちが根岸家の長屋門をくぐっています。友山は、根岸家の顔である長屋門を意識的に使っているように思われます。邸内の一部の「三余堂（さんよどう）」と名付けた学問所へ寺門静軒を招き、自身が北辰一刀流の千葉道場で剣を学んだことから「振武所（しんぶしょ）」という武道場も開き、地元の青年たちへむけて学問と武道の教育に力を注ぎ、新しい時代への備えをさせようとしていました。



この長屋門は、二層造、瓦葺で東に寄せて門口としています。広い間取とした西側の部屋を武道場としたとされ、明治以後は物産の展示場、養蚕部屋としても使われ、西へ取り付く長屋には博物館のさきがけとされる「菟古舎（かいこしゃ）」を開館し、吉見百穴の出土品などの考古資料を展示していました。

この長屋門は、二層造、瓦葺で東に寄せて門口としています。広い間取とした西側の部屋を武道場としたとされ、明治以後は物産の展示場、養蚕部屋としても使われ、西へ取り付く長屋には博物館のさきがけとされる「菟古舎（かいこしゃ）」を開館し、吉見百穴の出土品などの考古資料を展示していました。

本年、根岸氏はものづくり大学横山研究室の協力を得ながら、屋根を主とした緊急の改修工事を実施しています。市では長屋門を保存していくため、根岸氏へ補助金を交付し、改修事業を進めています。次号では長屋門の建築構造について紹介します。

## 文化財コラム 古代との遭遇・第3話 地上に残った大円墳—大塚古墳—



彩の国くまがやドームの東 350m ほど先のこんもりした森、ここに市指定史跡の大塚古墳があります。これは直径 35m、現高 3.5m を誇る円墳です。昭和 57 年 7 月、古墳中央の石室は、天井石が落ちかけ危険な状況になっていたために、天井石を安全な場所に移し、兼ねて石室の調査をすることにしました。地元の人の話では、昔はこの中に人が集い、宴を開いたこともあったそうです。かぶさった泥を除けていくと、天井石は半円形で天井部のちょうど半分の大ささでした。天井石の移動には、庭石運搬のプロである植木屋さんに頼みました。その石を目にした彼は「こりゃ 3 トン以上はあるでー」と驚きとも嘆きともとれる声を漏らしました。しかし、チェーンと滑車を巧みに使い天井石を徐々に外へ移動してくれました。天井石を除き、きれいにした石室の中は驚きの連続でした。

石室は樽型で長さ 4.2m、最大幅 3.4m の広さがありました。奥の壁になっている 1 枚の緑泥片岩の高さは 2.75m もあり、左右の壁に使われた角閃石安山岩は精巧に削られて上下左右隙間なく組み合わさっていました。その壁は上に行くほど大きな石 (30×40×50 cm) が使われており、内面全体を通して削られているのです。その上、横の列はほぼ同じ大きさの石が使用され、時には下の石との段差を鍵型に加工していました。全体では上に行くほど狭くなるようなドーム型に、そして奥の壁も内側に 10° 程度の傾斜を形作り、重い天井石の重量を全体的に分散させる見事な設計で作られていたのです。その場にいた全員はその精密な様子に見とれてしまいました。そんな高度な技術力を結集した石室を持つ大塚古墳は、1400 年もの間、地元の方々に保護され続けています。

### ☆クイズ de 文化財? 文化財クイズに答えて、素敵な文化財グッズを手に入れよう。

問題 次の  に入る言葉をそれぞれお答えください。

- ① 熊谷市にある唯一の国指定史跡は  (4 文字) である。
- ② 妻沼にある重要文化財  (6 文字) の一般公開は、平成 23 年 6 月に予定されている。

応募方法：ハガキに、①と②のクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、平成 22 年 7 月 30 日 (金) までにご応募ください (1 人につき 1 通)。

応募先：〒360-0107 熊谷市千代 329 番地 江南文化財センター

正解者の中から抽選で 10 名に、市内文化財ポストカード (3 枚組) を差し上げます。

(景品の発送をもって当選発表とさせていただきます。)

### 編集後記

1964 年、イタリア・ヴェネツィアにおいて採択されたユネスコ「記念建造物および遺跡の保全と修復のための国際憲章」は、その後の各国における文化財保護行政の指針となりました。その憲章では「オーセンティシティー (Authenticity)」という概念が示されており、日本では「真正性」という訳語が当てられています。これは、主に建造物や遺跡が持つ本物の美的価値や歴史的価値のことを意味します。本誌では、様々な文化財保護の現場を紹介しましたが、文化財・文化遺産のオーセンティシティーを後世に伝えるために、どのような方法が可能か、皆様と情報を共有できたら幸いです。



発行：平成 22 年 4 月 20 日

熊谷市立江南文化財センター (熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代 329 番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

ホームページ：文化財データ、埋蔵文化財の取扱方法、「BUNKAZAI 情報」カラー版などを豊富に掲載  
「熊谷市の文化財」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/>

「熊谷市 web 博物館」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>